



北海道
上川総合振興局
旭川建設管理部

北彩都あさひかわ 「旭川鉄道高架事業」

円滑で安全な 交通ネットワークの形成

北海道が主体となり、旭川市、JR北海道と共同で取り組んでいる旭川鉄道高架事業によって、JR旭川駅周辺が大きく変わろうとしています。



四又支柱

日本で初めての歩行者天国として開設された買物公園をはじめとする旭川の商業地は旭川市の北側になり、鉄道と忠別川があることで、住宅地は南側という住み分けです。その商業地と住宅地をつなぐ新神楽橋と、忠別橋の2本の橋の間隔は2キロメートル。この分断された状況を解決し、南北間の行き来をスムーズにすることで住宅街からもっと人を呼び込むことができれば、おのずと中心街の活性化につながります。大手百貨店が撤退するなど、一時期に比べ都心部の活力も低下。郊外型の商業施設に足を運ぶ傾向も否めません。旭川市は新しい都心づくりを目指す、大規模な都市再生プロジェクト「都心ルネッサンス 北彩都あさひかわ」を進めています。これにより中心部が魅力的なゾーンになると考えられています。旭川鉄道高架事業は、さまざまな事業を展開している北彩都あさひかわの中心的な事業であり、完成すれば南北の地域を円滑につなぎ、安全な交通ネットワークを形成することができます。



旭川建設管理部
事業室 事業課 都市整備係
主査

坂田 全史さん

事業は平成10年度から始まり、終了は平成23年度を予定。事業費は約610億円です。

北海道上川総合振興局旭川建設管理部事業室事業課都市整備係で主査を務める坂田全史さんは「旭川鉄道高架事業は、河川に隣接して除却する踏切がないため、2

橋の跨線橋を新設した場合の仮想事業費を算出し、これを補助対象額として実施する限度額立体交差事業をメインとして、北海道が事業主体となり旭川市・JRと協力して事業を執行しています。

関連事業として、北海道施工で平成23年春に開通予定の氷点橋と、旭川市施工で平成24年度開通予定のクリスタル橋の新設橋を整備しています。両橋は姉妹橋として旭川市公募により、10月1日に橋梁名が決まりました」と、説明します。

高架の範囲は旭川駅を中心に約3.5km。現線を生かしながら工事を行う別線施工方式を採用し、現在ある駅から川側に約70m移動して高架が作られ、高架を利用して駅舎が建設されます。またJR旭川運転所が高架事業の支障になったため、約6km離れた永山地区に移転します。

坂田主査と同部署で、やはり高架事業を担当する主任の久保田雅仁さんは「駅舎が大変素晴らしくなります。ホーム全体をガラスカーテンウォールというガラスの壁面と、鉄骨の大屋根で覆う洗練されたデザインを取り入れています。支柱は四又支柱を採用し、ゆとりのある空間を確保しています。内壁には木の街・旭川らしく道産材をたくさん使い、ぬくもり感を演出。駅のすぐ裏に忠別川と豊かな緑地がありますので自然との一体感が楽しめる駅が誕生するというわけです。地元の方はもちろん、観光でいらっしゃった方にも大変喜んでいただけたと思います」と、期待感高まるお話です。



旭川建設管理部
事業室 事業課 都市整備係
主任

久保田 雅仁さん



旭川鉄道高架事業の概要

一次オープンは 2010年10月10日

さらに北彩都あさひかわでは、バスの乗降スペースを作るなどし、駅前広場の環境を整えます。河川空間整備事業として忠別川河岸では在来種の植栽や、右岸では霞堤を活用し大池を創出。同部署の黒川智弘主任は「都市機能の充実を図るための区画整備事業、花々による安らぎの空間づくりを提供する北彩都ガーデンなど、市民と共に取り組んでいるのがこの事業の特徴です」と話します。



旭川建設管理部
事業室 事業課 都市整備係
主任

黒川 智弘さん

3方とも、「これまで道路だけの仕事をしてきましたが、今回は鉄道という異なるジャンルの方と手をつないでの作業。工事に関連する専門用語も異なりますので日々、勉強になることも多いですね」と、なかなか苦勞も多いようです。それでも新生旭川市のお手伝いができ、旭川の新しい顔に息吹を吹き込むという歴史的な事業に携わり旭川市民同様、平成23年度のグランドオープンが楽しみでならない様子でした。

なお、グランドオープンの前に一次オープンが2010年10月10日にあり、各種イベントが開催されます。